

三木町

保存版

防災 ハザードマップ

MIKI TOWN DISASTER PREVENTION HAZARD MAP

目次

ハザードマップの使い方	1	避難所開設手順	16
非常持ち出し品・備蓄品	2	ペットの防災対策	17
情報の集め方	3	マイ・タイムライン	18
水害時の防災行動を確認	4	土砂災害ハザードマップ	19～28
警戒レベルと避難行動	5～6	洪水ハザードマップ(想定最大)	29～38
水害について知る	7～8	洪水ハザードマップ(計画規模)	39～48
土砂災害について知る	9～10	洪水ハザードマップ(浸水時間)	49～58
地震について知る	11～12	ため池ハザードマップ	59～78
地震に備える	13～14	災害時のための連絡メモ	裏表紙
避難所等一覧	15		

三木町 令和8年2月発行

✓ ハザードマップの使い方

ハザードマップを確認して、普段から災害時に自分がとるべき行動を考えておきましょう。

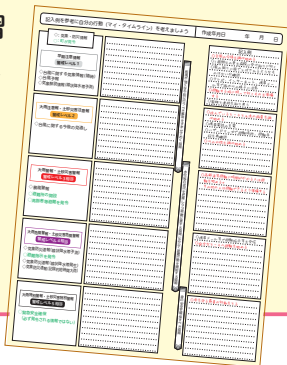
1. 自宅の位置と危険度を確認しましょう

自宅の場所をマップに書き込み、土砂災害や浸水害などのリスク情報を確認しましょう。

ハザードマップの種類		災害リスク			
地震 ▶ P.12	震度分布図	<input type="checkbox"/> 震度7	<input type="checkbox"/> 震度6強	<input type="checkbox"/> 震度6弱	<input type="checkbox"/> 震度5強
	液状化危険度分布図	<input type="checkbox"/> かなり高い	<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> 低い	<input type="checkbox"/> かなり低い
土砂災害ハザードマップ ▶ P.19～28		<input type="checkbox"/> 土砂災害警戒区域内	<input type="checkbox"/> 区域外		
洪水 ハザード マップ	想定最大規模 ▶ P.29～38	<input type="checkbox"/> 浸水区域内 (m)	<input type="checkbox"/> 区域外		
	計画規模 ▶ P.39～48	<input type="checkbox"/> 浸水区域内 (m)	<input type="checkbox"/> 区域外		
	浸水継続時間 ▶ P.49～58	<input type="checkbox"/> 浸水区域内 (時間)	<input type="checkbox"/> 区域外		
ため池 ハザード マップ ▶ P.59～78	() 池	<input type="checkbox"/> 浸水区域内 (m)	<input type="checkbox"/> 区域外		
	() 池	<input type="checkbox"/> 浸水区域内 (m)	<input type="checkbox"/> 区域外		
	() 池	<input type="checkbox"/> 浸水区域内 (m)	<input type="checkbox"/> 区域外		
	() 池	<input type="checkbox"/> 浸水区域内 (m)	<input type="checkbox"/> 区域外		

3. マイ・タイムラインを作ってみよう

ハザードマップの学習ページを参考にして、P.18のマイ・タイムライン記入シートに避難の順序を書き込みましょう。



2. 災害時の防災行動や避難場所の位置を確認しましょう

P.4のフローチャートを使って、とるべき避難行動を確認しましょう。



4. 避難経路を考えて、実際に歩いてみよう

ハザードマップで避難経路を考えたら、実際に歩いて避難にかかる時間を確認しましょう。



5. 災害や避難について話し合おう

家族だけでなく、地域や職場の方々と災害や避難について情報を共有しましょう。




非常持ち出し品・備蓄品

▶ 非常持ち出し品リスト

食料品など	衣類など	貴重品	日用品・安全対策・その他
<input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 非常食 	<input type="checkbox"/> 下着・上着 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 歯みがきセット <input type="checkbox"/> マスク 	<input type="checkbox"/> 預貯金通帳など <input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> 現金 	<input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <input type="checkbox"/> 予備電池 <input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> ティッシュ <input type="checkbox"/> 充電器 <input type="checkbox"/> 常備薬 <input type="checkbox"/> 食品用ラップ <input type="checkbox"/> 生理用品 


子供がいる家庭

<input type="checkbox"/> ミルク(キューブタイプ) <input type="checkbox"/> 使い捨て哺乳瓶 <input type="checkbox"/> 離乳食 <input type="checkbox"/> 携帯カトラリー <input type="checkbox"/> 子供用紙おむつ <input type="checkbox"/> お尻ふき <input type="checkbox"/> 携帯用お尻洗浄機	<input type="checkbox"/> ネックライト <input type="checkbox"/> 抱っこひも <input type="checkbox"/> 子供の靴
---	--



高齢者がいる家庭

<input type="checkbox"/> 大人用紙パンツ <input type="checkbox"/> 枕 <input type="checkbox"/> 補聴器 <input type="checkbox"/> 入れ歯 <input type="checkbox"/> 入れ歯用洗浄剤 <input type="checkbox"/> 男性用吸水パッド <input type="checkbox"/> デリケートゾーンの洗浄剤	<input type="checkbox"/> 持病の薬 <input type="checkbox"/> お薬手帳のコピー
--	--



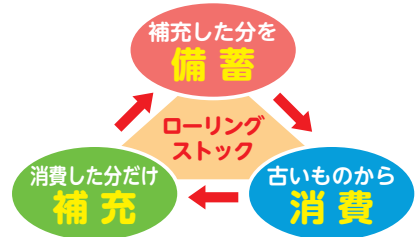
▶ 家庭での備蓄

家庭備蓄の例 (1週間分 / 大人2人の場合)

必需品	主食 <small>エネルギー 炭水化物</small>	主菜 <small>たんぱく質</small>	副菜・その他
水 2L×6本×4箱 ※1人1日およそ3L程度 (飲料水+調理用水) 	米 2kg×2袋 ※1袋消費したら1袋買い足す(1人1食75g程度) 	レトルト食品 ・牛丼の素、カレー等18個 ・パスタソース6個 	日持ちする野菜類 ・たまねぎ、じゃがいも等 調味料 ・お好みのもの 梅干、のり、乾燥わかめ等 野菜ジュース、果物缶詰等 即席スープ等 
カセットコンロ・カセットボンベ×12本 ※1人1週間およそ6本程度 	乾麺(うどん・そば・そうめん・パスタ) ・そうめん2袋(300g/袋) ・パスタ2袋(600g/袋) カップ麺類×6袋 パックご飯×6袋 その他(適宜) ・ロングライフ牛乳 ・シリアルなど 	缶詰(肉・魚) ・お好みのもの18個 	

・循環備蓄 (ローリングストック)

備蓄食料、水などの保存期間が切れる前に消費し、その分だけを補充して常に一定量のストックを保つことを「ローリングストック」といいます。定期的に古い備蓄品から消費することで無駄を出さず、いざというときに期限切れで使えなくなることを防ぎます。



・備えない防災 (フェーズフリー)

フェーズフリーとは、「身の回りにあるモノやサービスを、日常時はもちろん非常時にも役立てることができる」という考え方です。例えば、アウトドア用品やカセットコンロなどは非常時にすぐに活用できる備品です。普段の生活で活用できて非常時にも役立てられるものを探してみましょう。

情報の集め方

災害が発生する可能性が高まったときには、避難情報を発令します。集めた情報をもとに早めに避難行動をとってください。

▶ 避難情報・災害状況の伝達方法



広報車



戸別訪問



防災行政メール



スピーカー



防災行政無線
戸別受信機



緊急速報メール



テレビ



ラジオ



インターネット

▶ 自分で情報を調べたいとき

公的機関や報道機関が提供する災害情報を様々な方法で取得できる時代です。ご自身やご家族にとって一番便利な方法を考えて備えましょう。

防災行政メール

あらかじめ登録した人が携帯電話等で三木町からの防災情報をメールで受け取れます。



県下で発表されている情報をまとめて見たいとき

- かがわ防災webポータル
(避難情報・河川水位/ダム水位ほか)
<https://www.bousai-kagawa.jp/>



町の防災行政無線

世帯に一台、戸別受信機を無料貸出しできます。緊急性に応じて町から放送します。

三木町
防災行政無線
戸別受信機



スマホのメールや通知で気象・災害情報を知らせて欲しいとき

- 方法1 「緊急速報メール(エリアメール)」
- 方法2 「香川県防災情報メール」に登録
携帯電話スマートフォンで右のQRコードを読み込むか、
または「ml@bousai-kagawa.jp」に空メールを送信して登録してください。
- 方法3 「Yahoo!防災速報」などの民間
スマホアプリをダウンロード



詳しい気象情報を 取得したいとき

- 気象庁ホームページ
(防災情報・天気・キキクル ほか)
<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

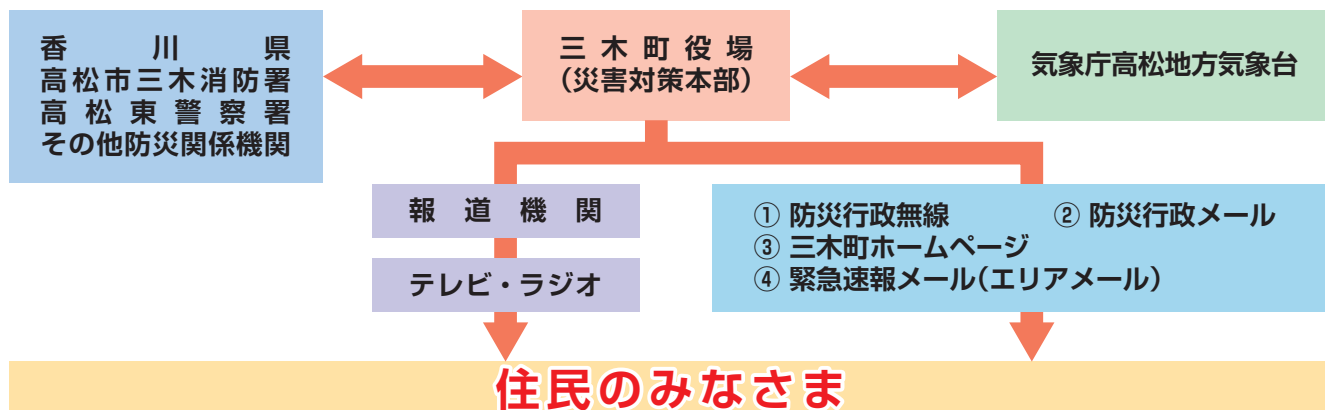


- 国土交通省「川の防災情報」
<https://www.river.go.jp/index>



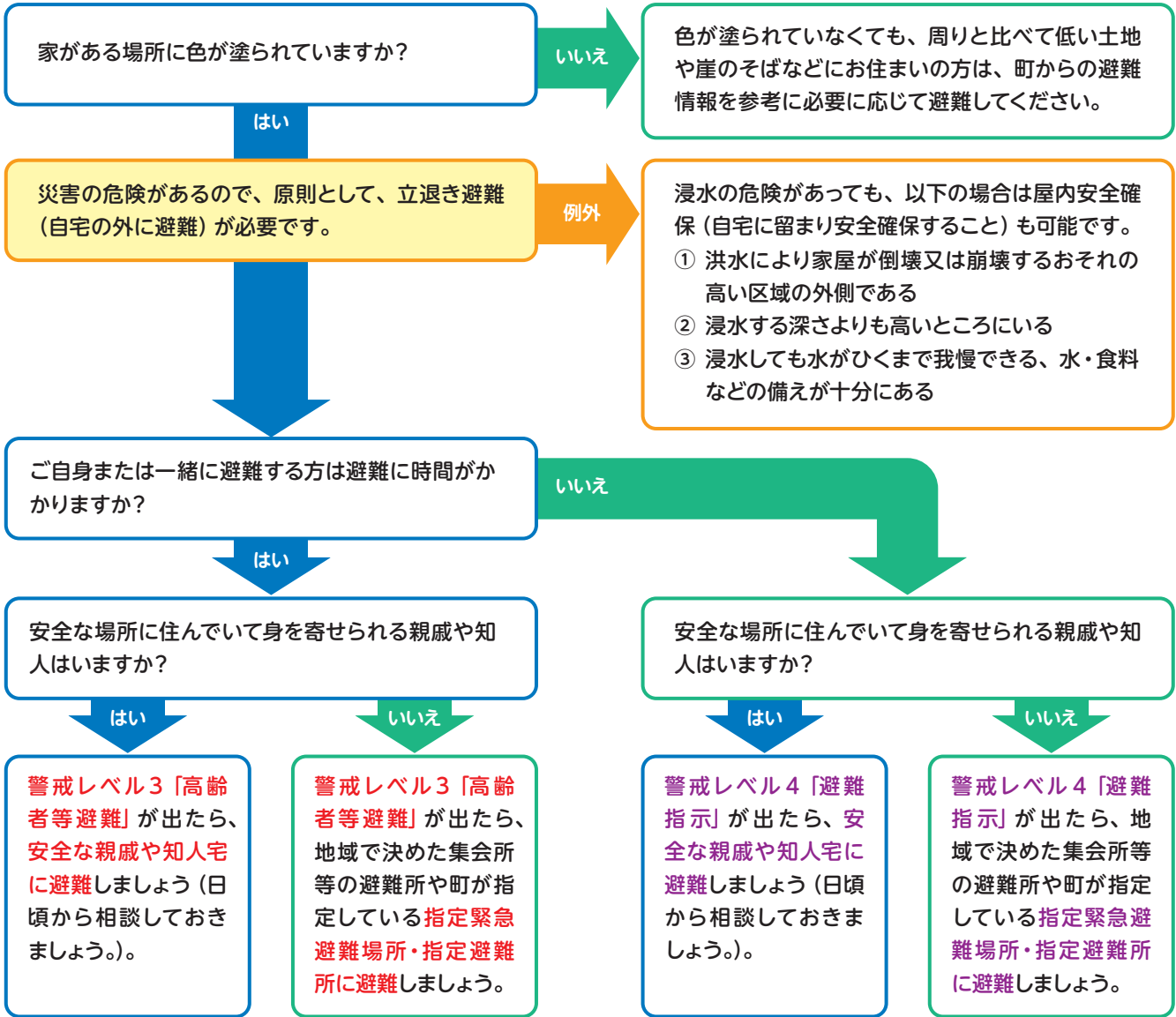
▶ 伝達経路

避難指示等の避難情報は、様々な方法で住民の皆様に発信されています。



！ 水害時の防災行動を確認

次のフローチャートや、情報ページなどを参考にして災害時の防災行動を確認しましょう。



topic 1 逃げ遅れたと思ったら

急激な天候の変化など、早い段階で避難できず、最寄りの指定緊急避難場所や警戒区域外へ避難するのが危険と感じた場合には、その場その時の状況で最も安全と思われる場所で身を守りましょう。

指定緊急避難場所に限らず最寄りの高く頑丈な建物



自宅の2階以上で斜面から離れた部屋



警戒レベルと避難行動

▶ 自分の命は自分で守る

町から高齢者等避難（警戒レベル3）や避難指示（警戒レベル4）などが発令された際には、危険な場所から速やかに避難してください。また、気象庁から警戒レベル3、警戒レベル4に相当する防災気象情報が発表された際には、避難指示などが発令されていなくてもキキクル（危険度分布）等を用いて自ら避難の判断をしてください。

キキクル
(危険度分布)



▶ 警戒レベルと防災気象情報

気象状況	警戒レベル	住民が取るべき行動	町の対応	気象庁などの情報												
数十年に一度の大雨	5	命の危険 直ちに安全確保! すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	<table border="1"> <tr> <td>大雨 低地の浸水や大河川以外の氾濫</td> <td>河川氾濫 1級河川などの大河川の氾濫</td> <td>土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや土石流</td> </tr> <tr> <td>レベル5 大雨特別警報</td> <td>レベル5 氾濫特別警報</td> <td>レベル5 土砂災害特別警報</td> </tr> </table>	大雨 低地の浸水や大河川以外の氾濫	河川氾濫 1級河川などの大河川の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや土石流	レベル5 大雨特別警報	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 土砂災害特別警報						
大雨 低地の浸水や大河川以外の氾濫	河川氾濫 1級河川などの大河川の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや土石流														
レベル5 大雨特別警報	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 土砂災害特別警報														
《 警戒レベル4までに危険な場所からかならず避難! 》																
↑ 大雨の数時間～2時間程度前 ↑ 大雨の半日～数時間前 ↑ 大雨の数日～約1日前	4	危険な場所から全員避難 台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	避難指示	<table border="1"> <tr> <td>レベル4 大雨危険警報</td> <td>レベル4 氾濫危険警報</td> <td>レベル4 土砂災害危険警報</td> </tr> <tr> <td>レベル3 大雨警報</td> <td>レベル3 氾濫警報</td> <td>レベル3 土砂災害警報</td> </tr> <tr> <td>レベル2 大雨注意報</td> <td>レベル2 氾濫注意報</td> <td>レベル2 土砂災害注意報</td> </tr> <tr> <td colspan="3">早期注意情報</td> </tr> </table>	レベル4 大雨危険警報	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル3 大雨警報	レベル3 氾濫警報	レベル3 土砂災害警報	レベル2 大雨注意報	レベル2 氾濫注意報	レベル2 土砂災害注意報	早期注意情報		
	レベル4 大雨危険警報	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 土砂災害危険警報													
	レベル3 大雨警報	レベル3 氾濫警報	レベル3 土砂災害警報													
	レベル2 大雨注意報	レベル2 氾濫注意報	レベル2 土砂災害注意報													
早期注意情報																
3	避難に時間を要する人は早めに避難 高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	高齢者等避難														
2	自らの避難行動を確認 避難場所や避難ルート、避難のタイミングなどを確認する。															
1	災害への心構えを高める															



警戒レベル3や警戒レベル4が出たら、危険な場所から避難しましょう。



「避難」とは「難」を「避」けることです。
安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。



避難先は小中学校・公民館だけではありません。
安全な親戚・知人宅やホテルに避難することも考えてみましょう。

※ 緊急時に身を寄せる避難先は、安全な親戚・知人宅や、町が指定する「指定緊急避難場所」など様々です。普段からどこに避難するかを決めておきましょう。

※ 「指定緊急避難場所」は、災害の種類ごとに安全な場所が指定されています。(小中学校、公民館など) ※P.15 参照

※ 災害が落ち着いた後に、自宅が被災し、帰宅できない場合には、しばらく避難生活を送るため「指定避難所」に行きましょう。

**警戒レベル3
高齢者等避難**

「高齢者等避難」が発令された地域で、危険な場所にいる高齢者など、避難に時間のかかる方と、その支援者は避難を開始

**■ 高齢者等の避難に協力**

高齢者や小さなお子さん、身体の不自由な方が、早めに避難できるよう、近所のみなさんは避難に協力しましょう。特に、一人暮らしの高齢者や病気の人たちには、ふだんから気配りが必要です。

※避難に時間がかかる方は、雨が降る前や雨が弱い時に親戚や知人宅に早めに避難することも有効です。

■ その他の人は避難の準備！**警戒レベル4
避難指示**

「避難指示」が発令された危険な場所にいる人などは**全員避難**

避難所に移動することによりかえって命に危険を及ぼしかねない場合は、近隣のより安全な場所に避難してください。また、外出すら危険な場合には屋内で安全を確保してください。

履物に注意しましょう！

運動靴が最適です。長靴は浸水が深いと中に水がたまるので動きにくくなります。

危険な場所は避けて避難しましょう！

がけ地、堤防や、ガード下などを通るのは危険です。近道であっても避けましょう。橋を渡ることは避けて避難しましょう。

■ 複数で避難・隣近所に声をかけましょう！

一人で避難すると、事故にあったとき非常に危険です。複数で避難し、隣近所に声をかけていきましょう。

**■ 車での避難は控えましょう！**

走行できなくなる状況での車の避難はやめましょう。

**歩ける深さに注意しましょう！**

浸水時に歩ける深さは、ひざの高さ程度までです。水かさか腰までであると疲労しやすく、流速がある場合は20cm位の水かさでも危険です。高い場所で救援を待ちましょう。

**警戒レベル5
緊急安全確保**

命の危険 直ちに安全確保！ ※災害が発生した場合に必ず発令されるものではありません。

既に災害が発生している状況であり、命を守る最善の行動をとりましょう。

topic 2 孤立集落と生活必需品の備蓄






道路崩壊や落橋によって交通手段が遮断されると、山間部では集落全体が孤立します。公的援助に時間がかかり、ライフレインの復旧も進まないことを想定し、山間部の家庭では1週間程度の水や食料、生活必需品を備蓄しておきましょう。また、集落においても通信設備や発電機等の機材や物資の備蓄をおこないましょう。



水害について知る

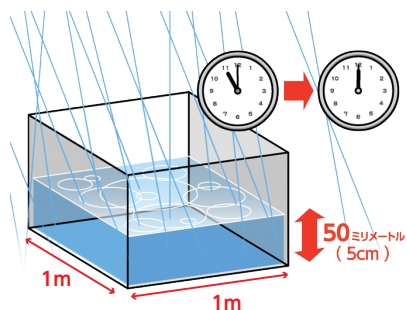
水害とは、大雨や台風などの多量の降雨によって引き起こされる災害です。梅雨期の大雨や台風などにより、平年の一ヶ月の雨量を超えるような雨が短時間で降ることがあります。台風などにより激しい雨が降ると、河川の急激な増水により社会生活に大きな影響を及ぼす河川の氾濫や山崩れなどの災害が発生します。

▶ 雨の強さと降り方（1時間雨量） ※ゲリラ豪雨などにより20mm～30mmの雨でも市街地では冠水する場合があります。

10～20mm やや強い雨	20～30mm 強い雨	30～50mm 激しい雨	50～80mm 非常に激しい雨	80mm以上 猛烈な雨
				
地面からの跳ね返りで足元がぬれる。	どしゃ降り。傘をさしていてもぬれる。	バケツをひっくり返した様に降る。	滝の様に降る。傘は全く役に立たなくなる。	息苦しくなるような圧迫感。水しぶきで一面白っぽくなる。

▶ 1時間に50mmの雨とは

テレビの気象情報などを見ていると「1時間に〇〇ミリの大雨が…」と説明しているのを良く聞きますが、実際にイメージしにくいと思います。では1時間50ミリの雨とはどの程度の雨なのでしょうか。



雨水が別の場所に流れず、そのままたまる状態で、1㎡の面積に「1時間に雨水が50mmの高さまでたまる」規模の雨です。

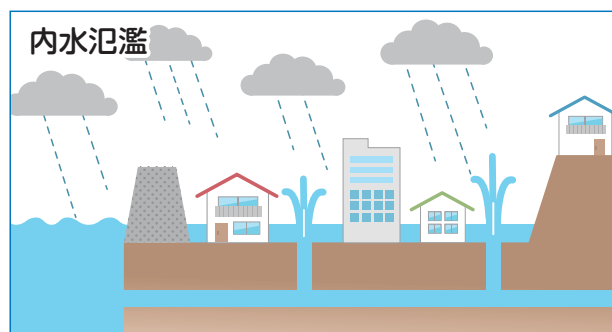


1時間傘を差していると、傘には牛乳パック50本分の雨があたることになります。

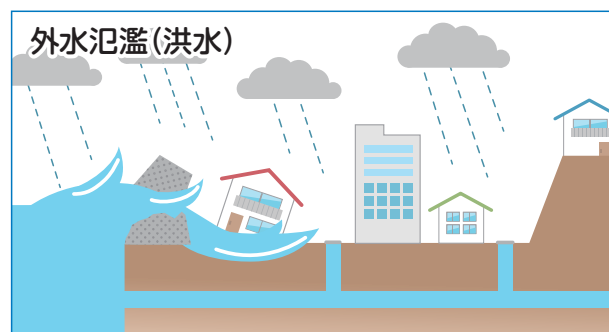


まわりの雨水があつまると川が増水します。

▶ 内水氾濫と外水氾濫（洪水）



大雨が降ると川の水位が上がり、用水路から川に排水されにくくなり、用水路などがあふれてしまいます。

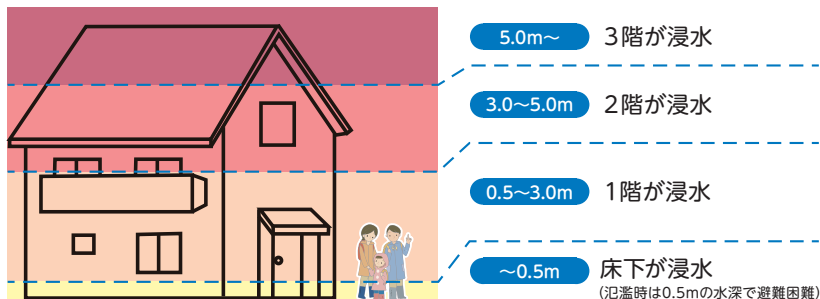


堤防が増水による水圧に耐えきれず崩壊すると、破れた箇所から水が勢いよく流れ出し、住宅や建物を押し流すなど甚大な被害を引き起こす危険があります。

▶ 水深の目安

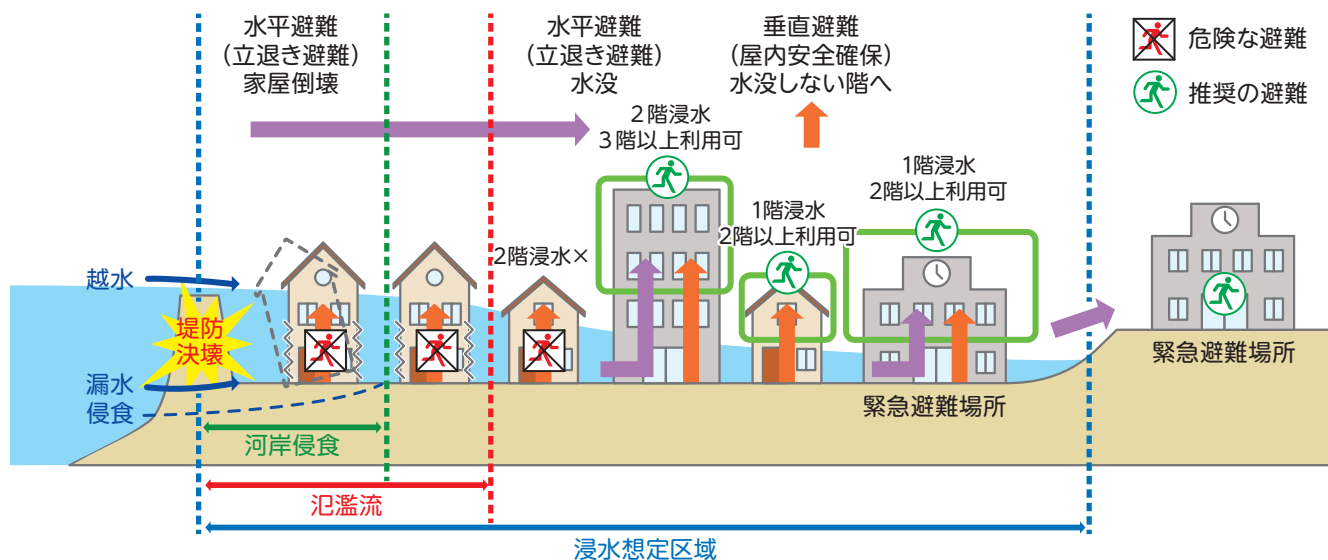
洪水や内水氾濫によって、市街地や家屋、田畑が水で覆われることを「浸水」といい、その深さ（浸水域の地面から水面までの高さ）を「浸水深」といいます。

一般の家屋では、浸水深が0.5m未満の場合は床下浸水、0.5m以上になると床上浸水する恐れがあります。



▶ 家屋倒壊等氾濫想定区域について

家屋倒壊等氾濫想定区域とは、堤防が決壊することで発生する激しい流れにより家屋などが流されるおそれのあるエリアです。



家屋倒壊等
氾濫想定区域の種類



河岸侵食による家屋の構造に関係なく、土台ごと流されるおそれのあるエリア



氾濫流による木造家屋が流されるおそれのあるエリア

topic 3 ため池決壊の起こり方と災害事例

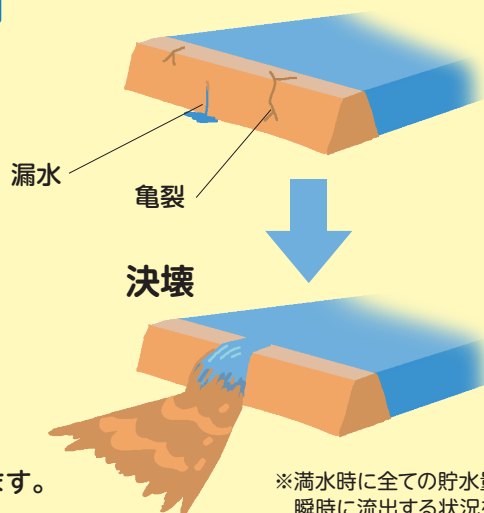
1 南海トラフ地震や直下地震、大雨で堤防が損壊する

…亀裂や堤防前面の滑落箇所から漏水など

2 破損した堤防が、貯水に耐えきれず「決壊」する

3 ため池決壊による被害

- …大量の水や土砂が濁流となって、同時に押し寄せます。
- …決壊地点直下の家屋や車は押し流される可能性があります。
- …道路や住宅地、田畑は土砂に埋まります。



※満水時に全ての貯水量が瞬時に流出する状況を想定しています。

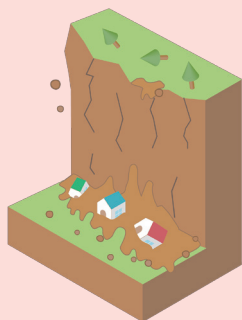
土砂災害について知る

土砂災害の種類

土砂災害には、「がけ崩れ」、「土石流」、「地すべり」の3種類があります。甚大な被害を引き起こす土砂災害に対処するには、それぞれの特性と発生の兆候を知ることが重要です。

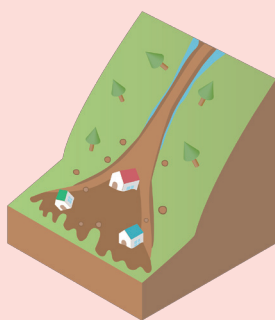
がけ崩れ（急傾斜地崩壊）

急な斜面の土砂が崩れ落ちることを「がけ崩れ」といいます。斜面の崩壊は突然起こりスピードも速いため、人家の近くでがけ崩れが起きると、逃げ遅れる人も多く、人的被害の出やすい災害です。



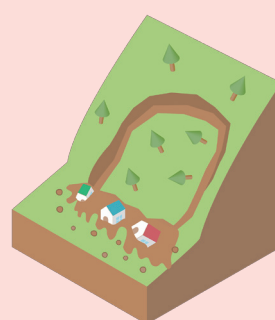
土石流

谷底にたまった土砂や山腹から崩れ出した土砂が水と混じり合って一体となり、谷を一気に流れ下ることを「土石流」といいます。一瞬のうちに人家や田畑などを壊滅させる恐ろしい災害です。

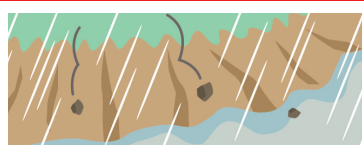


地すべり

地中のすべりやすい地層を境に地面がそっくり動き出すことを「地すべり」といいます。その発生規模は広範囲にわたり、人家や田畑が崩壊してしまうこともあります。



前兆現象

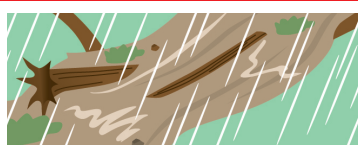


斜面（がけ）から小石がバラバラと落ちてくる



斜面（がけ）から急に水がわき出したり、わき水が濁る

前兆現象

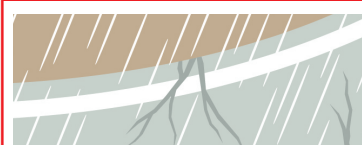


川が濁り、流木が一気に流れる

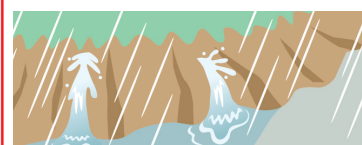


山鳴りがする

前兆現象



地面にひび割れができる



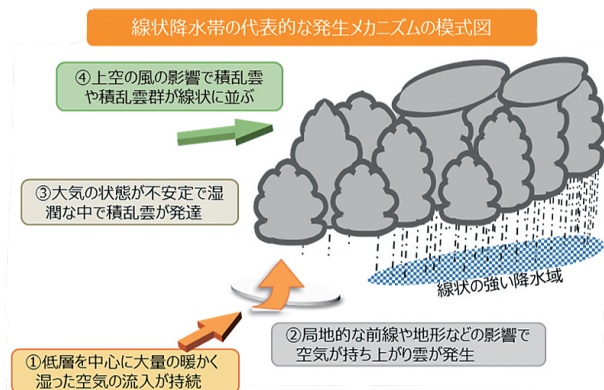
斜面の所々から急に水がわき出す

▶ 線状降水帯について

次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をともなう雨域を線状降水帯といいます。

毎年のように線状降水帯による顕著な大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じています。

災害発生の危険度が高まっている場所の詳細はキキクル（危険度分布）を確認してください。



気象庁「顕著な大雨に関する情報」ページより

▶ 地震の後は土砂災害に注意

土砂災害は豪雨の時だけではなく、地震の大きな揺れによっても引き起こされることがあります。平成30年（2018年）北海道胆振東部地震や、平成28年（2016年）熊本地震などでは、地震の揺れによる土砂崩れによって大きな被害が発生しました。

また、大地震の後は地下の深い部分まで地盤が緩むため、わずかな降雨で土砂災害が起こることもあり、勾配の緩い斜面や溪流などでも注意が必要です。



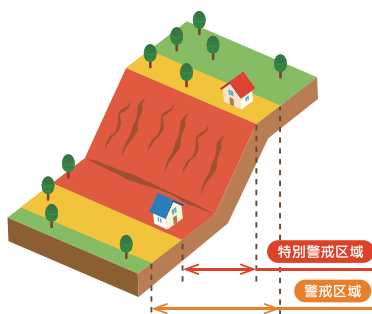
地震による土砂崩れ（厚真町吉野地区）
平成30年（2018年）北海道胆振東部地震

▶ 土砂災害（特別）警戒区域

土砂災害（特別）警戒区域の指定は、土砂災害防止法に基づき、土砂災害から人命や財産を守るため、危険性のある区域を明らかにし、警戒避難体制の整備や危険箇所への新規住宅の立地抑制等のソフト対策を充実させていくことを目的としています。

・土砂災害警戒区域

土砂災害が発生した場合に住民の生命や身体に危害を生ずる恐れがある区域



がけ崩れ



土石流



地すべり

・土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域のうち、建築物に損害が生じ、住民に著しい被害が発生する恐れがあり、特定の開発行為の制限や建築物の構造規制を行う区域

topic 4 豪雨や地震によっておこる「河道閉塞」^{かどうへいそく}

降雨や地震に起因する、土砂流出によって河川・溪流がせき止められることを河道閉塞（かどうへいそく）といいます。「天然ダム」や「堰止湖（せきとめこ）」と呼ばれる場合もあります。

河道閉塞が発生すると、河川・溪流の流水がたまり上流域の浸水被害が発生する可能性があります。また、下流域では、天然ダムの決壊によって大規模な土石流が発生し被害をもたらします。



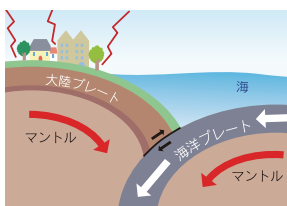
地震について知る

三木町で予測される地震は海溝型地震(南海トラフ地震)と直下型地震(長尾活断層地震・中央構造線活断層地震)があります。前回の南海トラフ地震(昭和東南海地震(1944年)及び昭和南海地震(1946年))が発生してから70年以上が経過した現在では、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まっています。

海溝型地震

海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込んでいるために定期的に大陸プレートが跳ね上がって起こる地震

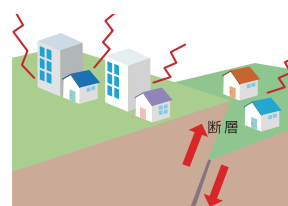
- 揺れている時間が長い。(1分以上続く場合もある。)
- 大津波が襲ってくる危険性がある。
- 短くて数十年から100年単位の間隔で発生する。



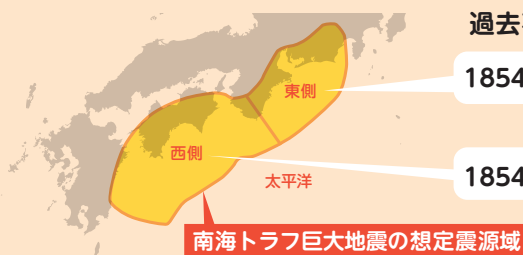
直下型地震

陸域の比較的地下の浅いところ(ユーラシアプレートの内部)で活断層がずれて起こる地震

- 揺れている時間が相対的に短い。
- 都市直下で起こる危険性がある。
- 千年~1万年程度の間隔で発生する。



● 地震は一度では終わらないかも？



過去事例

1854年 安政東海地震 M8.6

1944年 昭和東南海地震 M8.2

↓ 約32時間後…

↓ 約2年後…

1854年 安政南海地震 M8.7

1946年 昭和南海地震 M8.4

南海トラフ巨大地震の想定震源域

※Mはモーメントマグニチュード
※西側で先に大規模地震が発生する可能性もあります。

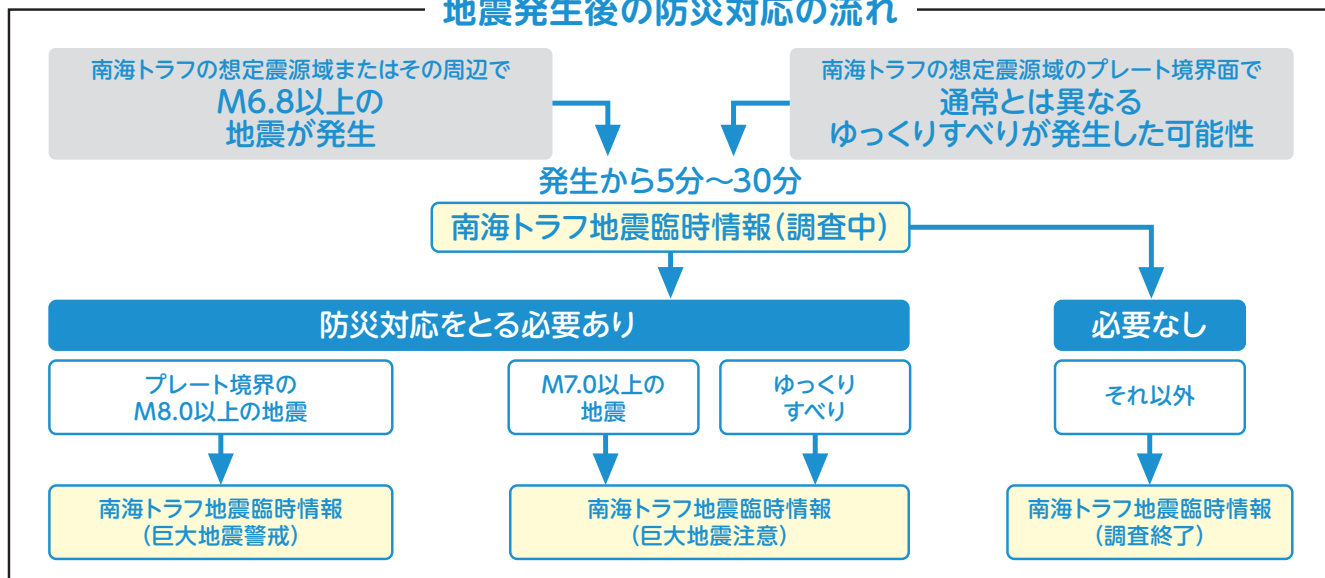
▶ 南海トラフ地震臨時情報

南海トラフでは、過去に32時間後や約2年後に時間差で大規模な地震が発生したことがあり、時間差で発生する大規模な地震に備える必要があります。

「南海トラフ地震臨時情報」は、例えば、南海トラフ沿いの東側で地震が発生し、西側でも地震が続発する可能性が高まった場合などに気象庁より発表されます。

南海トラフ地震臨時情報が発表された場合、日ごろからの地震の備えを再確認しましょう。

地震発生後の防災対応の流れ

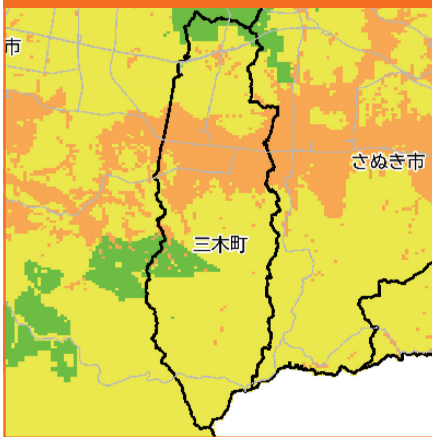


※「南海トラフ地震—その時の備え—」(内閣府気象庁)より作成

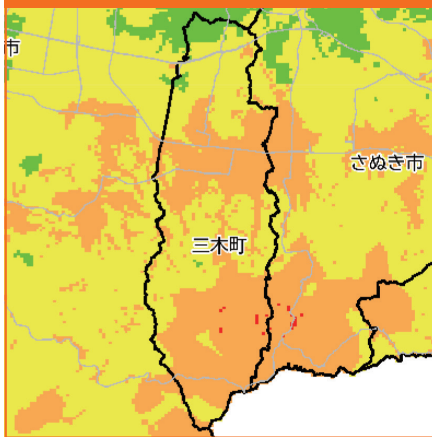
▶ 震度分布図

震度7 震度6強 震度6弱 震度5強 震度5弱 震度4 震度3以下

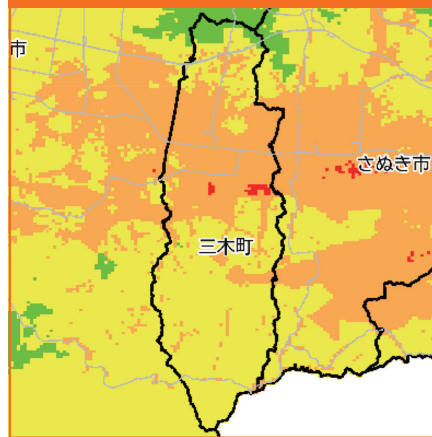
南海トラフ地震 (最大クラス)



長尾断層地震



中央構造線地震



令和7年 香川県地震・津波被害想定調査報告書

・震度と揺れの状況

震度 5弱 大半の人が恐怖を感じる。固定していない家具が移動し、不安定なものは倒れる。

震度 6弱 立っていることが困難。ガスや水道の配管に被害が出る。耐震性の低い建物は倒壊の恐れがある。

震度 7 揺れに翻弄され、自分の意思で動くことができない。耐震性の高い建物でも倒壊などの被害がある。大きな地割れや地すべりなどが発生する。

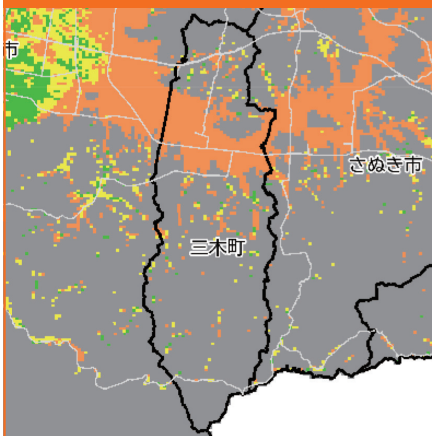
震度 5強 多くの人が物につかまらなさと歩けない。固定していない家具は倒れることがある。窓ガラスが割れて落ちることがある。

震度 6強 立っていることができず、はわないと移動ができない。補強されていないブロック塀はほとんどが倒れる。

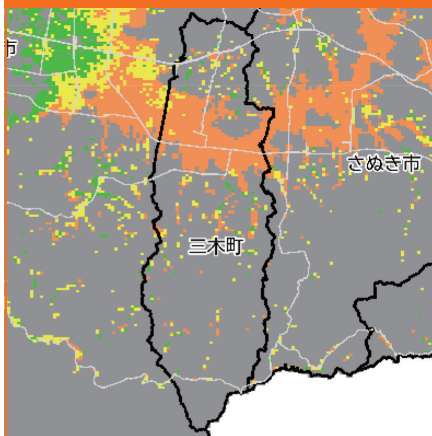
▶ 液状化危険度分布図

液状化危険度… かなり高い 高い 低い かなり低い

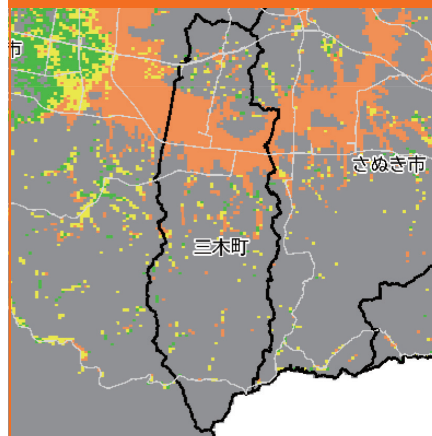
南海トラフ地震 (最大クラス)



長尾断層地震



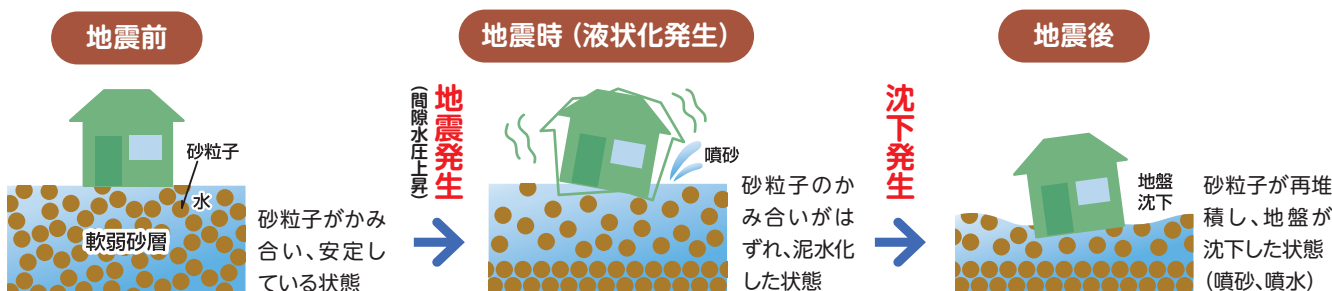
中央構造線地震



令和7年 香川県地震・津波被害想定調査報告書

・液状化のメカニズム

液状化とは、地震によって地盤が一時的に液体のようになってしまう現象で、地盤の上の建物を傾かせたり沈ませたりします。



地震に備える

▶ 緊急地震速報

緊急地震速報は、地震が発生してから強い揺れが襲来するまでのごく短い時間を活用して、地震による被害を軽減しようとする情報です。緊急地震速報が鳴ったら周囲の状況に応じて、あわてずにまず身の安全を確保する。

気象庁は、最大震度5弱以上が予想された場合で、震度4以上の揺れが予想される地域に対して緊急地震速報(警報)を発表します。地震速報は、以下の方法などで専用の報知音とともに伝えられます。



テレビ



携帯電話・スマホ



戸別受信機・屋外スピーカー

震源に近い地域では、緊急地震速報の発表が強い揺れに間に合わないことがあります。

出典：気象庁「緊急地震速報」

▶ 地震発生から避難後までの行動マニュアル

地震は突然発生するので日ごろの備えが大切です。大きな地震が発生したら「慌てずに身の安全を確保」、「安全なところに移動」、「より安全なところに避難」。

地震発生

1~2分

3分

5分

10分

数時間

3日

山・がけ崩れ、ため池決壊の危険が予測される地域の方は身の安全を確認してすぐ避難

最初の大きな揺れは約1~3分間

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難する。
- あわてて外へ飛び出さない。
- 大きな揺れの場合は、揺れがおさまってから火の始末をする。



揺れがおさまったら

- 火元を確認、火が出たら落ち着いて初期消火する。
- 家族の安全を確認、倒れた家具の下敷きになっていないかを確認。
- 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく。
- 避難するときは、屋根瓦等の転落やブロック塀・自動販売機等の転倒に注意する。
- 仕事やレジャーで海岸部に滞在している場合、直ちに高台へ避難する。



みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう

- 要配慮者の安全確保、隣近所で助け合う。
- 行方不明者はいないか。
- けが人はいないか。

出火防止初期消火

- 初期消火、消火器を使う。バケツリレー、風呂の水はためておく。
- 漏電・ガス漏れに注意。
- 電気のブレーカーを下げる・ガスの元栓を閉める。

協力して消火活動、救出・救護活動

- 大声で知らせる。
- 救出・救護をする。
- 避難は徒歩で。
- 電話は緊急連絡を優先する。



ラジオ等で正しい情報を得る

- デマにまどわされないようにする。
- 水、食料は蓄えているものでまかなう。3日間の飲料水と食料の準備をしておく。
- 災害・被害情報を収集する。
- 無理はやめよう。
- 助け合いの心が大切。
- 壊れた家に入らない。



▶ 地震にあったら

鉄道・バスでは

- つり革・手すりにしっかりつかまる

エレベーターでは

- 最寄りの階に停止させ、すぐに降りる

屋外（街）では

- ブロック塀の倒壊に注意
- 看板や割れたガラスの落下に注意

自動車運転中は

- 急ブレーキはかけず、ゆるやかに速度をおとす
- ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意をうながす

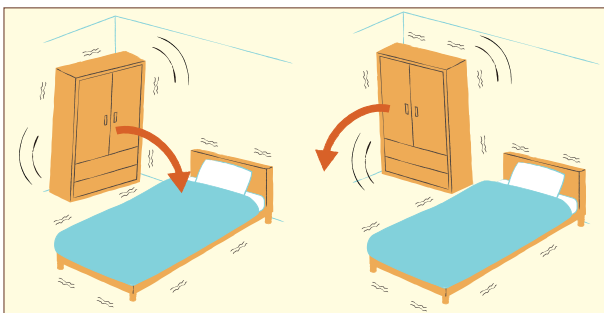
緊急地震速報



▶ 家の中の安全対策

寝室対策

寝ている場所や出入口付近に家具が転倒しないよう、家具の向きや位置を変えましょう。



感震ブレーカー

電気火災対策には、感震ブレーカーが効果的です。「感震ブレーカー」は、地震発生時に設定値以上の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕のない場合に電気火災を防止する有効な手段です。

転倒防止金具



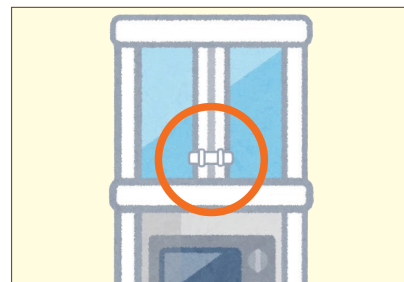
壁・柱・鴨居と家具を固定するタイプと、床などに固定するタイプがあります。

重ね止め用金具



重ねた上下の家具を固定し、上の家具の落下を防ぎましょう。

扉・引き出し開放防止金具



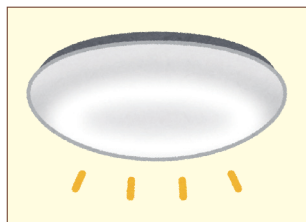
扉・引き出しが開かないようにしましょう。

収納に工夫を



重いものは下に、軽いものは上に収納しましょう。本棚などは、なるべく隙間を作らないようにしましょう。

照明器具の補強を



天井に直接取り付けるタイプの照明を使用しましょう。吊り下げ式の場合は、鎖と金具を使って数箇所留めて補強しましょう。

落ちる危険のあるものは置かない



テレビはできるだけ低い位置に固定しておきましょう。家具の上に落ちる危険のあるものを置かないようにしましょう。

ガラスの飛散防止対策を



飛散防止フィルムを貼りましょう。食器棚などに使われているガラスにも飛散防止フィルムを貼りましょう。

避難所等一覧

No.	施設名	住所	電話番号	洪水 (最大規模)	洪水 (計画規模)	土砂 災害	地震	障がい者用 トイレ	防災 倉庫	AED
1	農業者トレーニングセンター	朝倉1441	087-898-8212	○	○	○	○		○	○
2	池戸商工センター	池戸2340-1	087-891-0876	○	○	○	○	○	○	○
3	ししの子幼稚園・保育所	池戸1388-34	087-864-4405	○	○	○	○	○	○	○
4	保健センター	池戸1276-5	087-898-5658			○	○	○	○	○
5	井戸公民館	井戸2679-1	087-898-6404		○	○	○	○	○	○
6	井戸教育集会所	井戸2631-1	087-898-3851		○	○	○			○
7	老人福祉会館あけぼの荘	井上1966-5	087-898-7650	○	○	○*1	○	○	○	○
8	旧神山小中学校	奥山987	087-891-3301	○	○	○*1	○			
9	津柳地区コミュニティセンター	奥山1109-6	087-899-0013	○	○		○	○	○	
10	鹿庭コミュニティセンター	鹿庭乙255	087-899-1138	○	○	○	○	○		○
11	神山公民館	鹿庭1755-1	087-899-0330	○	○	○	○	○	○	○
12	三木町B & G海洋センター	上高岡2544-3	087-899-1155	○	○	○	○	○	○	○
13	すばーく三木屋内ゲートボール場	上高岡2545-14	087-899-1155	○	○	○	○	○		
14	共同福祉施設	上高岡2542-5	087-899-1122	○	○	○	○	○		○
15	旧小蓑小中学校	小蓑1351-1	087-891-3301	○	○	○*1	○		○	○
16	三木町文化交流プラザ	鹿伏360	087-898-9222	○*1	○*1	○	○	○	○	○
17	平木文化センター	鹿伏256-1	087-898-6892			○	○			○
18	白山小学校	下高岡352-1	087-898-0257	○	○	○	○	○	○	○
19	白山教育集会所	下高岡2123-1	087-898-9116			○	○	○	○	○
20	ウォーキングセンター	下高岡1459-2	087-891-1789		○	○	○	○	○	○
21	田中小中学校	田中4620-2	087-898-0501	○	○	○	○	○	○	○
22	田中公民館	田中3841-1	087-898-0504	○	○	○	○	○	○	○
23	三木中学校	氷上31	087-898-1547			○	○	○	○	○
24	氷上小学校	氷上2845	087-898-0710	○	○	○	○	○	○	○
25	農村環境改善センター	氷上370-2	087-891-3318	○*1	○*1	○	○	○		○
26	地域交流センター	氷上2871	087-891-1321	○	○	○	○	○		○
27	三木町防災センター ^{*2}	氷上310	087-891-3317	○*1	○*1	○	○	○	○	○
28	平井小学校	平木710-1	087-898-0713		○	○	○	○	○	○
29	社会福祉法人朝日園	池戸931-6	087-898-2323	○	○	○	○	○		○

※1 2階以上または施設内の危険区域外に避難することを前提とした施設です。 ○=利用可能
 ※2 三木町防災センターは、高齢者、障がい者等の要配慮者の滞在に適した施設です。
 指定福祉避難所の受入対象者は、事前に町が聞き取り調査等を実施し、受入調整を行った方に限ります。

▶ 避難場所と避難所の違い

避難場所に逃げるべき時に、避難所へ間違えて避難すると命にかかわります。避難場所と避難所は目的が大きく違うため、違いを確認してください。

避難場所

災害から逃げる
安全な場所



洪水

川が氾濫しても浸水しない高い場所
状況により開設場所が変わるので確認が必要!

土砂

土砂災害(特別)警戒区域の外側の危険がない場所

避難所

災害後に一時的に
生活する所



学校・体育館など多くの人が寝泊まりできる場所

地域住民による災害発生～避難所開設・運営・撤収の流れ

(大規模地震の場合)

発生

3分

身の安全の確保

隣近所の確認 (出火の有無、救助等の必要性の有無)

30分

「地域の集合場所 (一時避難場所)」に集合

避難

3時間

避難所開設準備 ※受入準備が整うまで避難者は屋外待機

当面の活動を指示するリーダーの決定

避難所の安全確認

避難所区割り

開設

避難者への開設・受付開始 (避難者数把握 (名簿づくり等))

居住スペースへの誘導

- 災害時要配慮者の救出・救助
- 地域内の出火確認・初期消火、救出・救助活動、安否確認の継続



24時間

運営体制づくり

避難所運営委員会の設置

会議の開催

- トイレの確保
- ペットの受け入れ
- 飲料水の確保
- 通信手段の確保

- けが人・病人の応急対応
- 災害時要配慮者の振り分け



48時間

避難所運営

- 行政との連絡体制の確立
- 被災者への情報伝達
- 在宅被災者への対応
- 食料物資の配給

- 災害時要配慮者への対応終了 (緊急入所、福祉避難所)
- 1週間をめぐりに安否確認終了

72時間

避難所の安定化

- ルールの確立
- 生活支援
- 居場所づくり
- プライバシー確保対策
- 管理 (衛生・食事・健康) の徹底
- 相談体制の確立



1週間

避難所統廃合

閉鎖に向けた動き



撤収

ペットの防災対策

災害で想定されるペットの事態

- 負傷する。
- 迷子になる。
- 飼い主が飼育できなくなる、または飼い主がいなくなる。
- 同行避難による周囲とのトラブル
- 飼い主とペットが離ればなれになることによる心理的影響



日頃から心掛けること

- 預け先を見つけておく。
- ワクチン・予防接種を受ける。
- 名札・鑑札をつける。

▶ 避難中のペットの安心空間づくり

避難所での飼養

- 各避難所が定めたルールに従い、飼い主が責任を持って世話をする
- 飼養環境の維持管理には、飼い主同士が助け合い、協力することが必要

知人や施設などに預ける

- 被害がおよぶ可能性が低い遠方の知人に預けることも検討しておく
- 施設に預ける場合は、条件や期間、費用などを確認し、後でトラブルが生じないように、覚書などを取り交わすことを推奨する

防災対策チェックシート

ペットの餌やトイレ等は配布物資にはありませんので、ご自身でご用意ください。

- 迷子にならないための首輪
- リード
- 水（ペットボトルに用意）
- フードの買い置き
- キャリーバッグ（またはクレート）
- トイレシート、臭い防止のピックパック、オスならマーキングガードなどの生理用品
- 靴、もしくはハンカチとガムテープなど足先を守るもの
- タオル
- 薬などの救急セット

自宅で飼養する

- 支援物資や情報は、必要に応じて指定避難所などに取りに行く（自宅の安全確認を確実に行う）

車の中で飼養する

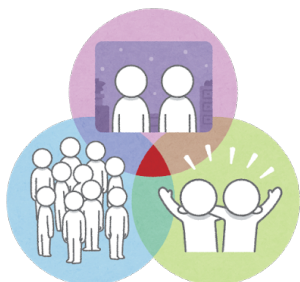
- 支援物資や情報は、必要に応じて指定避難所などに取りに行く
- ペットだけを車中に残すときは、車内の温度に常に注意し、十分な飲み水を用意しておく
- 長時間、車を離れる場合には、ペットを安全な飼養場所に移動させる（安全の確認とエコノミークラス症候群には十分注意）

topic 5 避難時における衛生対策

災害発生後に、水害による浸水や地震による津波、家屋倒壊の危険性がない場合は、感染リスクの低い自宅や親戚宅など、「少人数・個別空間」での避難を優先させましょう。

避難所は不特定多数の方が頻りに屋外との出入りを行うため、衛生環境の維持が困難となります。どこに避難する場合であっても、感染症予防やまん延防止のために一人ひとりが対策を行いましょう。

3密（密閉・密集・密接）を避けましょう



こまめに手洗い・アルコール消毒をしましょう



常にマスクを着用し、咳エチケットを守りましょう。





マイ・タイムライン

突然起こる地震とは違い、台風などの風水害は時々刻々と進行する進行型の災害です。安全に避難するためにどのような順序で防災行動を行うべきかを、高齢者等避難などの行政が発信する情報のタイミングに合わせて考えてみましょう。

記入例を参考に自分の行動（マイ・タイムライン）を考えましょう

作成年月日 年 月 日

- ◇: 気象・防災情報
- : 町が発令

早期注意情報 警戒レベル 1

- ◇台風に関する気象情報(随時)
- ◇台風予報
- ◇気象解説情報(線状降水帯予測)

大雨注意報・土砂災害注意報 警戒レベル 2

- ◇台風に関する今後の見通し

大雨警報・土砂災害警報 警戒レベル 3相当

- ◇暴風警報
- 避難所の開設
- 高齢者等避難を発令

大雨危険警報・土砂災害危険警報 警戒レベル 4相当

- ◇気象防災速報(線状降水帯予測)
- 避難指示を発令
- ◇気象防災速報(線状降水帯発生)
- ◇気象防災速報(記録的短時間大雨)

大雨特別警報・土砂災害特別警報 警戒レベル 5相当

- 緊急安全確保
(必ず発令される情報ではない)

雨風が強くなる前に行うべき事項をすませておく時期

水位等の状況を把握しつつ避難に要する時間に応じて避難行動を開始する時期

身の安全を確保すべき時期

記入例

- 台風の今後を調べ始める
- 1週間分の薬を病院に受け取りに行く
- 家の周りに風でとばされるようなものはないか確認
- テレビ、インターネット、携帯メール等で雨や川の様子に注意
- 避難する時に持って行くものを準備する
- 家族と連絡を取りあう

- 住んでいるところと上流の雨量を調べ始める
- 携帯電話の充電
- ハザードマップで避難場所、避難手段を再確認
- 川の水位を調べ始める

- 高齢者等避難に時間がかかる人は避難を始める。
- その他の人は避難できるように準備する

- 携帯メール等で避難指示等を受信
- 安全なところへ避難を始める

- 命を守る最善の行動をとる

災害時のための連絡MEMO

集合場所 ご家族などで話し合って記入ください。

災害別	一時避難場所	避難先(第1候補)	避難先(第2候補)
地震			
水害			



家族などの連絡先

名前	血液型	会社・学校	電話番号

大きな地震など災害時には、電話回線が混み合いつながりにくくなります。各電話会社が提供する「災害用伝言ダイヤルサービス」や「災害用伝言板サービス」を安否確認にご利用ください。



伝言の登録方法

電話

171にダイヤル

「1」をダイヤル

市外局番+電話番号*

伝言を録音

Web

web171.jpにアクセス

電話番号を入力*

登録ボタン

名前/安否/伝言を登録



伝言の確認方法

電話

171にダイヤル

「2」をダイヤル

市外局番+電話番号*

伝言を再生

Web

web171.jpにアクセス

電話番号を入力*

確認ボタン

伝言内容を確認

*電話番号は被災地の方の市外局番からの電話番号、または携帯電話番号

伝言ダイヤル・伝言板 体験利用提供日 毎月1日・15日/1月1日~3日/1月15日~21日(防災とボランティア週間)/8月30日~9月5日(防災週間)

救急病院

施設名	住所	電話番号
香川大学医学部附属病院	池戸1750-1	087-898-5111
松原病院	池戸3232-1	087-898-0620
樫村病院	平木56-7	087-898-1431

困った時の連絡先

施設名	電話番号
三木町役場	087-891-3300(代)
高松東警察署	110または087-898-0110
高松市三木消防署	119または087-898-4119
四国電力送配電(株)香川支社 フリーダイヤル	087-864-3730 0120-410-805
NTT西日本 局番無しの 携帯電話・PHSからは	113または0120-444-113
香川県長尾土木事務所	0879-52-2585

お問い合わせ

三木町 総務課 危機管理係

TEL: 087-891-3301
FAX: 087-898-1994

〒761-0692 香川県木田郡三木町大字氷上 310 番地

https://www.town.miki.lg.jp/

発行 三木町